

国際会議参加報告書-APECS World Summit 2015 "The Future of Polar Research"

鄭 峻介 (国立極地研究所/北海道大学 地球環境科学研究院)

私は2015年6月6日(土)から6月8日(月)までソフィア大学(ブルガリア、ソフィア)において開かれたAPECS World Summit 2015に参加し、現在設立に向けて動き出しているAPECS JAPANの現状についての口頭発表を行いました。APECS(ASSOCIATION OF POLAR EARLY CAREER SCIENTISTS)とは学部生から大学院生、ポスドクを含む若手研究者など寒冷圏・極域に関わる研究・教育・情報発信に従事する人々からなる、自主的な国際的・学際的な組織です。その目的は、国際間の、そして学際的な共同研究を進めること、また情報交換を通してお互いのキャリアデベロップメントを助け合うことにあります。さらには、極域の研究・教育・アウトリーチのコミュニティーにおける次世代のリーダーを育てていくことも目的の一つとしています。

APECS World Summit 2015 "The Future of Polar Research"は、APECSが主導で実施する初めての大規模な国際会議であり、21か国から総勢36名の若手極域研究者、及び10か国から13名のシニア研究者が参加して行われました。開催期間の前半では、極域データの国際的、および学際的な共有体制の構築に向けた議論が行われました。変化が著しい極域環境においては、観測データの迅速な共有が重要であることが再確認され、data paperやデータアーカイブシステムを用いた極域データの迅速な共有に関して、それら分野を専門とするシニア研究者からの講義があり、その後、若手研究者間で活発な議論が行われました。開催期間の後半では、今後のAPECSの運営に関する議論が行われました。その中で、現在の欧米中心の組織から真の国際組織となるべく、アフリカ、中央・南アメリカ、そしてアジアのより多くの国の参加を期待する声が多く挙がりました。今回、アジア圏から参加したのは日本とインドの2か国のみであり、日本にはインドと共にアジア圏の代表としてAPECSの国際的、および学際的活動への貢献が大きく期待されていることを強く感じました。私個人としても、国としてこのような活動に参加し、その存在感を示していくこと、あるいは個人的に、同様の研究をしている研究者らと情報交換あるいは共同研究を進める機会をより多くすることは大変有意義なことであると考えています。

今回の会議では、すでにAPECSの組織会員として活動を行っている多くの国の代表の方々と直接話をすることができ、APECS JAPANが組織会員として、APECSの国際的、および学際的活動に対してどのように貢献できるか、その可能性について様々なヒントを頂いたように思います。ここで得られた経験を今後のAPECS JAPANの立ち上げ活動に生していきたいと思っています。



写真；会議の様子